

製 造 業

- ◇パン…常総市で水害を受けた組合員は無事操業を再開できた。組合全体では、食の安心安全を心掛けています。
- ◇酒…9月の課税移出数量は前年同月比97.4%と落ち込んだ。特定名称酒(吟醸・純米・本醸造)は前年を上回ったが一方、普通酒は落ち込んだ。焼酎については98.2%とやや復調している。清酒輸出については、組合員が積極的に取り組んでおり、堅調な伸びを示している。9月10日の関東東北豪雨による当県蔵元の被害状況は、激甚災害指定を受けながらも未だ復旧には至っていない。特に、醸造蔵内の清掃に時間を要し、設備機器の入れ替えに苦慮している。10月1日に開催した「全国一斉日本酒で乾杯」イベントは、国内外326箇所、約47,000名が一斉乾杯を行い、日本酒のおいしさ、楽しさを多くの方々に周知できた。当県の会場でも県知事、4市長ほか関係者ら約200名が参加し、一斉乾杯を行った。また、10月9日には「茨城地酒まつり in 花やしき」を開催。700名限定にもかかわらず、当日の来場希望者が多く、試飲のみで対応するなど大盛況だった。
- ◇納豆…一部の大手メーカーを除き、中小メーカーは厳しい経営環境にあるが、差別化商品の取り扱いに特化しているメーカーは健闘している。流通の末端価格が下げ傾向にある。
- ◇菓子…10月は天候が良い日が多く、売上は若干伸びたが収益は減少した。今後は、収益を伸ばすための活動に取り組んでいきたい。
- ◇繊維製品(袋物)…10月はほぼ現状維持。年末にかけての受注に期待したい。
- ◇木材…原木不足が県内の製品市場にも影響しており、国産材(杉)、特に良材は品不足が顕著。需要期の原木不足とあって、良材を中心に手当て買いがみられた。プレカット各社においても、仕事量は回復しつつあるが、製品の仕入れを増やすまでには至っていない。需要が盛り上がり欠けているため、このまま市況が回復し続けるとの見通しは少ない。
- ◇プレカット…目標の85%程度加工することができた。11月も加工予定が入っており、10月同様になると思われる。乾燥材関連がまた値上げ傾向。合板は値戻しになり、これ以上値上げになると厳しい。
- ◇段ボール…大手メーカーは、前年と比べて良くなってきているが、中小企業は前年割れになっている。中小のシェアが大手に奪われている状況。常総市

の水害を被った企業は、企業としては継続するが、数名を残してほとんどの社員に退職してもらったとのこと。

- ◇焼物…秋の行楽シーズンの幕開けとなる笠間浪漫が無事終了した。客足は例年並。この後もまだまだイベントがあるので頑張りたい。
- ◇霊電…売上は対前月比で少し増加したが、収益は悪化。作業量の減少などで先行きの不透明感がある。
- ◇鍍金…自動車・建機・家電業界の受注量が減少。他の受注先も微減。全体でみると1割程度の減少。金属材料価格は若干の値上がり、工業薬品価格は前年並み。電気料金、燃料費は値下がりしている。
- ◇電化機器…当月の生産高は、対前年同月比△75百万円(△9.8%)の687百万円。対前月比では60百万円ほど増加した。依然として先行きが見えず厳しい状態。
- ◇自動車部品…売上はやや回復基調。
- ◇工業団地(農機部品)…主得意先の上期国内向け増産計画が終了し、輸出向けの増産が始まった。団地全体では対前年同月比で売上増となった。雇用面では、臨時社員が減少した。

非 製 造 業

- ◇水産卸…精算所取扱高は、対前年同月比7.03%増加。低温仕分施設を利用した量販店の取扱高が増加している。
- ◇県南地区卸売…食肉加工部門は順調、日用品雑貨は平年並み、飲料水・酒類は不振。全体で見ると売上は増加。
- ◇食品卸売…野菜に関しては、前年に引き続き数量減単価高で推移した。果実に関しては、数量は前年並、単価高で推移。常総市の水害の影響で、レタスやキャベツなどの葉ものが入荷減になった。11月に入り、全体的な品薄感が解消され、単価は平年並に落ち着く見込み。
- ◇セメント卸…袋セメントの出荷数量は前年同月比で横ばいだったが、前月比では15%増加となった。年度末に向けた公共工事の進展によるものと思われる。
- ◇家電…県内の景気は落ち込みが続き、家電業界でも苦戦を強いられている。地域店の強みは、任せることができる存在であること、通り一遍のつきあいではない存在であること、何かあればお客様のもとにすぐに駆けつけることができる存在であること。超高齢社会に突入した現在、この存在を広くアピールしていくことが大切。
- ◇県北地区共同店舗…力を入れた売出しイベントに

は賑わいも見られたが、対前年比で売上が増加せず、茫然自失だった。

◇**県央地区共同店舗**…核店舗の改装、お客様向けセールが好調で、何とか売上を確保できた。ただし、店舗間の売上格差が拡大しているため、年末に向けて全体的に底上げできるよう販売促進活動を行っていく。

◇**県南地区共同店舗**…気温が下がってきたため、秋冬物の衣料品が好調だった。一方で、ファミリー層を中心とするアミューズメント関連の集客は前年同月比85%と苦戦した。

◇**中古自動車**…10月後半より景況が上向いてきた様子。県西地域では、常総市の水害の影響で低価格車両の販売が増加しているものの、収益は好転していない。オークションでは、出品台数が減少しているものの成約率は上昇している。

◇**石油**…ガソリンの販売価格は前年同月比で32円下落した。依然として、元売子会社や大手業者による仕入れ価格を下回るような価格での安値販売競争が県内全域で行われているため、廃止・休業に追い込まれる組合員がいる。

◇**商店街(下妻)**…水害の影響は復旧しつつあるが、原材料価格の高騰など収益面で大変厳しい状況が続いている。客数の減少や国道125号沿いに新たな大型店が進出し、今後も厳しい状況が続く。

◇**ホテル旅館**…全体的に売上、稼働率ともに増加。ビジネス系のホテルでは、ツインリンクもてぎでのレース、土浦の花火大会、各種学会などのイベントでの宿泊、新しい企画もで集客に成功した。観光系のホテルでは、インパウンドの団体客が増加。限定プランなどの企画では、平日でも個人客が増加。

◇**自動車整備**…組合員事業場の車両在庫状況指数である継続検査台数(持込検査)の対前年同月比は、普通車95.2%と減少、軽自動車103.9%と増加。

◇**総合建設**…市の土木工事の発注が活発になってきた。年度末の工期にむけて、今の時期に発注しないと完工しない。そのため、ダンピング受注は減少してきている。その一方で入札不調もおきている。

◇**電気工事**…仕事はあるが、人手不足のために仕事を断るしかない状況。特に、県南・県西に仕事が多く、中堅工事業者が苦勞している。台風18号の影響により、水海道支部で24件の床上・床下浸水の被害を受けた。まだまだ通常業務に復旧できない。

◇**県北地区運輸**…主要顧客の出荷物量が総じて低調で、売上高が減少した。燃料価格は安値で安定してきた。

◇**県央地区運輸**…秋冬物の切り替え時期のため、衣料品・雑貨・家電など全体的な荷動きが盛んになってきたが、水害の被害を受けた会社があり、稼働が減少した地域もある。このため、収益は減少した。

H27.10月の業界天気図

業種	指数	売上		収益状況	
		前年同月比		前年同月比	
食料品製造業		0.0		▲ 16.7	
その他製造業		0.0		▲ 30.0	
卸売業		50.0		▲ 25.0	
小売業(商店街を含む)		▲ 36.4		▲ 63.6	
サービス業		50.0		50.0	
建設業		▲ 40.0		▲ 40.0	
運輸業		▲ 50.0		▲ 100.0	
全体		▲ 8.0		▲ 36.0	

【天気図の見方】県内情報連絡員が毎月いただいている情報連絡票の業況項目について、「増加」(又は「好転」)業種割合から「減少」(又は「悪化」)業種割合を差し引いた値(D.値)をもとに作成しています。その基準は、下図のとおりです。

30以上	10~30未満	10未満~▲10	▲10超~▲30未満	▲30以上

※表の中の数値はD.値

中小企業者様の財産を様々なリスクから守るために作られた共済組合



茨城県火災共済協同組合

〒310-0801 水戸市桜川2-2-35 茨城県産業会館8階 029-224-0610